

法政大学大学院  
入学試験 解答又は解答例、出題の意図

|                |                                   |              |
|----------------|-----------------------------------|--------------|
| 試験科目           | 人文科学研究科 地理学専攻<br>修士課程《一般・外国人・社会人》 | 2025年度<br>秋季 |
| 専門科目<br>(人文地理) |                                   |              |

【1】

《解答又は解答例》

問1 (1) 文化地理

文化地理学とは、文化現象を地理学の視点と方法により解明する分野である。食文化、信仰文化、言語文化など様々あるが、宗教分布や信仰圏などの解明も、文化地理学の研究といえる。

(2) 歴史地理学

日本における歴史地理学は、空間の歴史的变化を解明する地理学として位置付けている。具体例として、都城や条里、荘園、城下町、宿場町などの集落の形成や形態の研究がある。

(3) 政治地理学

国家や政治を研究対象とする人文地理学の一分野である。日本における政治地理学の研究テーマとして、選挙地理学、行政地理学、公共政策に関する研究などがある。

(4) 経済地理学

経済現象の空間的分布や地域差、地域間の相互関係等を研究対象とする人文地理学の一分野である。産業立地やサービス業の空間的特性、地域問題の解明などに関する研究がある。

問2 (1) 地図投影法の分類と特徴

丸い地球を平面である地図に表現する方法を地図投影法とよぶ。主な地図投影法として、地図の性質を表す用語として、正積図法、正角図法、正距図法などがある。

正積図法は、面積が正しく表現されるもの。正角図法は角が正しいもの。正距図法は、ある基準地点からの距離が正しく表現される。

投影面に地球に合わせた形状でいうと、方位図法、円筒図法、円錐図法などがある。

方位図法は、ある基準地点からの方位が正しいもの。円筒図法は、投影面が地球に巻き付けた円筒状になる。メルカトル図法が有名である。円錐図法は、投影面が地球に巻き付けた円錐状になる図法である。

(2) 地図の利用と社会

地図の利用はその提供形態によってさまざまである。これまで、地図は住宅地図や地図帳などの印刷物や看板や街区地図などの掲示物が主であった。しかし、近年では、デジタル情報として地図が提供されるようになり、社会での地図の利用は大きく変化

法政大学大学院  
入学試験 解答又は解答例、出題の意図

|                |                                   |              |
|----------------|-----------------------------------|--------------|
| 試験科目           | 人文科学研究科 地理学専攻<br>修士課程《一般・外国人・社会人》 | 2025年度<br>秋季 |
| 専門科目<br>(人文地理) |                                   |              |

した。

デジタル地図として有名なのは、カーナビである。GISの普及も目覚ましい。また、Google マップのように、データや地図の表示機能、その利用のアプリケーションが分離して使えることから、地図の活用場面が広がった。スマートフォンの活用も、地図活用の広がりを促進している。

《出題の意図》

地理学の系統地理学的な考え方や知識、地図に関する知識と考え方、社会での利用や役割を問う問題である。

【Ⅱ】

《解答又は解答例》

問1 (1) 輸入代替工業

外国から輸入していた製品を自国で生産するように切り替えていく政策、またはその工業化戦略のこと。

(2) 雁行形態論

新興工業国が先進国の産業構造を追跡し、経済発展を遂げていく様相として「雁行形態型経済発展」が提唱された。名称は、雁が空に群れを成して飛ぶ姿に似ていることに由来する。日本を起点に、韓国、シンガポール、台湾、香港、次いで、中国などのアジアの経済成長モデルとしてとらえられた。

(3) フードマイレージ

食料の輸送にかかる「輸送量(トン)」と「輸送距離(キロメートル)」を掛け合わせた数値で、環境への負荷を示す指標のこと。

(4) ジェントリフィケーション

都心の再開発や高級化により、低所得者層が住む地域に中産階級以上の層が移り住み、結果として地域住民の階層が上がり、家賃や地価が高騰する現象のこと

問2 経常収支の黒字をけん引しているのは、第一次所得収支の拡大である。第一次所得収支の内訳をみると、債券利子・株式配当金を計上する証券投資収支の黒字幅は、2000年以降徐々に拡大している。また、海外子会社からの配当金等を計上する直接投資収支は、海外子会社の設立やM&Aなど企業の海外進出の進展により、その対名目GDP比への寄与が

法政大学大学院  
入学試験 解答又は解答例、出題の意図

|                |                                   |              |
|----------------|-----------------------------------|--------------|
| 試験科目           | 人文科学研究科 地理学専攻<br>修士課程《一般・外国人・社会人》 | 2025年度<br>秋季 |
| 専門科目<br>(人文地理) |                                   |              |

1991年から19年間で17倍も拡大している。これは、日本経済がグローバルに展開する企業によって海外で稼ぐ力を強めているからである。

問3 食料自給率は下記の計算式によって求められる。

$$\text{食料自給率} = \frac{\text{国内生産量}}{(\text{国内生産量} + \text{輸入} - \text{輸出}) - \text{在庫量}}$$

この式から食料自給率を向上させるためには、輸入量を減らし、国内生産量を引き上げることで分子を大きくするか、輸出量を増加させることで、分母を減らす方法が考えられる。しかし、実際には、国内の消費は多様化し、輸入量は増える一方で、国内生産量は農業生産力の伸び悩みによって減少している。そのため、食料自給率は向上しない。

問4 特定の「基盤産業」が地域外との取引を通じて稼いだ所得を、域内での消費や投資を通じて「非基盤産業を」を成長させ、所得の地域内での再循環させることで、地域経済全体の発展を説明する説。

《出題の意図》

経済のグローバル化が進んでいることを踏まえて、産業（農業や工業，貿易）立地にかかわる地域経済の基礎理論についての理解度を確かめる出題である。ポイントは、世界経済・日本経済・地域経済といった地域スケールごとに問題把握の仕方が異なること、経済発展論に対する多少の前提知識が必要となることである。

法政大学大学院  
入学試験 解答又は解答例、出題の意図

|                |                                   |              |
|----------------|-----------------------------------|--------------|
| 試験科目           | 人文科学研究科 地理学専攻<br>修士課程《一般・外国人・社会人》 | 2026年度<br>秋季 |
| 専門科目<br>(自然地理) |                                   |              |

【1】

《解答又は解答例》

問1 海進ステージ、つまり海面が上昇する過程では、陸地も隆起するため、海面が陸地を追い越し、沈没するが、次第に海面上昇速度がピークに達する間氷期の最盛期では海面上昇速度と陸地の平均隆起速度がシンクロし、相対的に安定するため、長期間にわたって陸地は同じ水準で侵食作用が継続し、結果として広い平坦面が形成される（段丘面の形成）。逆に海退ステージ、つまり海面が下がる過程では陸地は隆起するため、相対的に早い速度で陸地と海面が離れていき、平坦面は形成されず、急斜面である海食崖が形成され、これが段丘崖になる。このような作用が数十万年間繰り返されることにより、多段化した海成段丘地形が形成される。

問2 マントルの岩石が溶けてマグマが形成される条件は1. 温度の上昇、2. 圧力の低下、3. 水を含むことによる固相線を越えて液相の状態になることである。岩石は一般に水を含むと融点が下がるからである。海洋プレートは堆積岩や枕状溶岩の空隙にたくさんの水をもっている。また含水鉱物（角閃石）なども多い。水はプレート境界面を通して排出されるが、一部は大陸プレートのマントルウェッジに進入する。スラブ上面の含水マントル層中の角閃石は圧力 3.5Gpa 程度で輝石やザクロ石と水に分解される。これはほぼ 110km の深さで、地上の火山フロントに一致する。さらに圧力 6Gpa（深さ 180km）になると雲母類がカンラン石の中で分解して水を放出する。これは背弧側の火山列の位置に一致する。放出された水はマントルウェッジ内を上昇し、カンラン石が水によって融点がさがり一部溶融しメルトが生じる。メルトが集まってマグマとなり上昇し、マグマ溜まりをつくり、火山列を形成する。上昇の過程で温度や周りから供給される元素などによりマグマが珪長質マグマと苦鉄質マグマに分化する。沈み込み角度が深いと、火山フロントは海溝から近くなり（日本では 200-300km）、角度が浅いと遠くなる（アンデスでは 400km）。ちなみに、広がる境界では2「. 圧力低下」、ホットスポットは「1. 温度上昇」がマグマが形成去される要因である。

《出題の意図》

問1 変動帯である日本列島における特徴的な地形である更新世に形成された海成段丘について、その形成メカニズムに関する基本的な知識を問うことによって、論文作成能力をはかることを意図している。

問2 日本列島を取り巻くプレートの動きと、プレートの沈み込み過程で形成される島弧型マグマの基本的な知識を問うことによって、論文作成能力をはかることを意図している。

法政大学大学院  
入学試験 解答又は解答例、出題の意図

|                |                                   |              |
|----------------|-----------------------------------|--------------|
| 試験科目           | 人文科学研究科 地理学専攻<br>修士課程《一般・外国人・社会人》 | 2026年度<br>秋季 |
| 専門科目<br>(自然地理) |                                   |              |

【Ⅱ】

《解答又は解答例》

- 問1 シベリア気団：冬にシベリアや中国東北区に発現する大陸性寒帯気団。  
オホーツク海気団：梅雨や秋雨の頃にオホーツク海や三陸沖に発現する海洋性寒帯気団。  
小笠原気団：北西太平洋の亜熱帯高気圧域に発現する海洋性熱帯気団。  
揚子江気団：一般には移動性高気圧の通過に際して、日本付近を覆う大陸性亜熱帯気団。  
春と秋に長江流域で発現する。
- 問2 日本は、太平洋とユーラシア大陸の境界付近に位置し、季節により様々な気団の影響を受けるため四季が明瞭である。春と秋には、長江流域で発現する温暖で乾燥した揚子江気団が、偏西風により周期的に覆う。春と夏、夏と秋との境界時は、それぞれ、梅雨や秋雨となるが、それらはオホーツク海気団に影響を受ける。夏には、偏西風が日本の北を流れるようになり、高温多湿な小笠原気団が勢力を強め、熱帯並みの暑さとなる。冬は、寒冷で乾燥したシベリア気団が強まり、西高東低の冬型の気圧配置になると、シベリア気団からの寒気が流れ込んでくる。その際、日本海を通過し、雪雲を発生させ、日本海側に大雪を降らせることもある。

《出題の意図》

- 問1 日本を取り巻く4つの気団（シベリア気団、オホーツク気団、小笠原気団、揚子江気団）がそれぞれ、いつ、どこで発現し、どのような特徴を持った気団であるか、気候学に関する基本的な知識を問うことによって、論文作成能力をはかることを意図している。
- 問2 日本の気候の特徴について、問1の4つの気団の影響がいつ、どのように表れ、それらが日本の各地域の気候に及ぼす影響について説明させることにより、気候学に関する基本的な知識並びに論理的思考力を問うことによって、論文作成能力をはかることを意図している。

【Ⅲ】

《解答又は解答例》

問1

1) 比流量

河川の流量は、流域面積によって異なるため、流量の絶対値では、河川ごとの流出現象の特性を比較することが困難であるため、単位面積当たりの流量で比較することが一般的で、それを「比流量」といい、単位面積としては、普通100km<sup>2</sup>を用いる。

2) 宙水

法政大学大学院  
入学試験 解答又は解答例、出題の意図

|                |                                   |              |
|----------------|-----------------------------------|--------------|
| 試験科目           | 人文科学研究科 地理学専攻<br>修士課程《一般・外国人・社会人》 | 2026年度<br>秋季 |
| 専門科目<br>(自然地理) |                                   |              |

不飽和帯の通気層中に、局部的に不透水層があると、地下水面よりも上に独立して帯水することがあり、このような地下水を「宙水」と呼び、台地や扇状地の浅井戸などで古くから利用されている。

3) 湖沼の分類

湖沼の分類には、大きく分けて、①成因、②熱、③栄養による分類があり、①は、湖沼の大きさや形に違いを生じさせ、湖水の物理的な運動に大きく影響する。②は、湖水の上下の循環に影響するとともに、酸素を中心とした溶存物質に違いが生じる。さらに、流入・溶存物質の違いなどにより、③では、貧栄養湖・中栄養湖・富栄養湖・酸栄養湖などに分類される。

4) 陸水における雪氷の割合

地球上の水のうち、約2.5%が陸水と考えられているが、そのうち約70%が雪氷であると見積もられており、大半が永久雪氷圏で、約90%が南極、9%がグリーンランドにあるといわれている。氷河なども量の上では少ないが、夏場は雪が存在しない季節雪氷圏も広く存在し、陸水学的には重要である。

5) 黒潮大蛇行

地球規模の環境を考えると、低緯度から高緯度に向かって陸地の近くを流れる暖流の影響は大きく、日本の自然環境の変化には、列島の南を流れる黒潮と、北を流れる対馬海流が大きく影響している。中でも黒潮は、大きく蛇行していて、年によって陸地との距離が変化するため、特に沿岸域の気候・気象に大きな影響を与えていることが知られており、様々な分野で研究されている。

問2 日本には、永久雪氷圏である氷河はほとんど存在せず、高山に越年する雪渓が分布する程度であるが、冬季のみ積雪のある季節雪氷圏は、日本海沿岸や高山を中心に広く分布している。地球規模でも同緯度の他地域に比べて降雪量が多いのは、日本海を流れる暖流である対馬海流が、冬季にも大気中に多くの水分を供給することと、冬季の典型的な西高東低の気圧配置により、シベリアの極低温の寒気が日本海を超えて日本列島の脊梁山脈に向けて吹いてくることによる。

従って、寒気のぶつかる脊梁山脈の風上側に多くの積雪をもたらすが、山を越えた風下側や、山まで距離のある平野部でも降雪が多いのが、日本海沿岸の降雪の特徴である。

また、同じ季節雪氷圏でも、地域によって融雪現象は異なり、北海道などの寒冷積雪域では、融雪は春先にまとまって生じるのに対し、新潟などの温暖積雪域では、冬季の間、天候によって、降雪・積雪・融雪を細かく繰り返すため、融雪現象は複雑である。

法政大学大学院  
入学試験 解答又は解答例、出題の意図

|                |                                   |              |
|----------------|-----------------------------------|--------------|
| 試験科目           | 人文科学研究科 地理学専攻<br>修士課程《一般・外国人・社会人》 | 2026年度<br>秋季 |
| 専門科目<br>(自然地理) |                                   |              |

問3 日本は海に囲まれているため、陸域の環境変化が、河川水や地下水を通じて広く海域に影響するが、内湾などの閉鎖性水域では、特にその影響が大きい。かつては、様々な汚染物質や栄養塩が流れ込んだため、夏場を中心に、プランクトンの異常発生による赤潮の問題が大きく、水温躍層によって形成された貧酸素水塊が海底の堆積物から溶出させた物質が原因となる硫化水素が、吹送流で生じた湧昇流で海面に現れるという青潮の害も頻発した。しかし、水質汚濁防止法などの規制により、河川水中の汚濁物質は減少し、海水中の栄養塩も少なくなって、赤潮や青潮の発生頻度は減ったが、逆に、貧栄養化によって海藻などが無くなる磯焼けや、海水中の窒素とリンの濃度比の変化による有害なプランクトン発生などの問題が生じている。

また、瀬戸内海西部などでは、中国からの栄養塩が越境汚染で流れ込んだことが原因となるコクロによる赤潮発生など、新たな問題も生じている。

《出題の意図》

海洋・陸水学・水文学に関する基礎知識とその応用である諸課題に関する理解を問うことが目的である。